

さとしょう

議会だより

No. 77
2014.7.31



岡山県 里庄町議会



- 補正予算3件は賛成全員で可決 (3)
- マイナンバーの総事業費は (質疑より) (5)
- 「手話言語法制定を求める」国へ意見書 (7)
- 町政を問う(5人が登壇) (8)
- シリーズ “地域の子どもたち” (14)

定例会

全員で可決!

● 公共下水道事業会計

※個人番号（12桁）を新たに付与し、この番号を社会保障・税制度等の共通番号として管理することで、自治体間の情報連携・共有をスムーズに行い、住民サービスの向上を図ります。

国が示すスケジュールでは平成26年度中に設計、平成27年度10月までに開発、テストを行うことになっていきます。
それに対応するため、本年度必要となる費用のうち、総務省の補助金対象となる次表の費用を予算計上しました。

(単位:千円)

システム名等	予算額	財源	
		国庫補助金	町の持出額
住民基本台帳システム改修	8295	4800	3495
地方税務システム改修	5994	2124	3870
統合宛名システム導入	1836	1700	136
番号付番用サーバ等導入	4783	0	4783
番号付番用サーバ保守料	733	0	733
合 計	21641	8624	13017

マイナンバー制度導入費
2164万円

平成26年第4回里庄町議会定例会は、6月10日から13日までの会期で開かれました。議案は、平成26年度の補正予算3件、条例の一部改正3件、町道路線の廃止と認定が各2件、人事案件1件が上程され、議員からは発議1件を上程し、原案どおり可決しました。また報告4件もすべて承認されました。

なお、一般質問では5人の議員が登壇し、町の姿勢や考えを問いただきました。



西小学校の給食棟

一級建築士と委託契約

29万2000円

建築に関して専門的な立場での助言や指導を受け、業務の効率化と経費

削減を図るために一級建築士と委託契約を結びます。



マコモタケ

マコモタケの葉を自然乾燥させてお茶の原料として出荷するためにビルハウスを建てます。

そのための費用を農協生産推進活動補助金として予算計上しました。

マコモタケの葉を加工 35万円

補正予算3件は賛成

● 一般会計 ● 国民健康保険特別会計



マコモタケの除草作業

6月補正の結果

会 計 名	補 正 額	(補正後の金額)
一 般 会 計	2978万4千円	(42億9701万円)
国民健康保険特別	75万2千円	(12億2249万2千円)
公 共 下 水 道 事 業	400万円	(2億8174万1千円)
収益的支出 資本的収入	3330万円の財源の振替をおこないました。	



公共下水道工事(殿迫地区)

質

疑

▼マコモタケのお茶とは
▼マイナンバーの総事業費は

一般会計補正予算は2人、土地開発公社
(報告)は1人が質疑を行いました。

一般会計補正予算

マコモタケのお茶とは

高田議員

①駐車場の防犯カメラを、リースから買い取りにする。新品を買うのか。駐車場のどこへ付けるのか。また、学校の防犯カメラのリース料と金額が違うが。

②過誤納還付金の理由と、還付先は何社あるのか。

③何のために臨時職員が必要なのか。新しく採用するのか。

④マコモタケのお茶とは具体的にどうするのか。

また、ビニールハウスだ

けで乾燥は十分なのか。

⑤幼・小・中学校の防犯

カメラをどこに付けるの

か。当初計画してないも

のをなぜ急遽付けるのか。

⑥歴史民俗資料館の管理

委託料は、当初予算でな

ぜ出てこなかったのか。

また、どこに委託するの

か。

総務課長

①県の補助に

従い、買い取りのほうが

経費が安く上る。歩道橋

等3カ所つける。駐車場は学校と違いモニターがない。

町民課参事

②中間申告

で予定納税があつたが、

確定申告で確定した納税

額が少なかった。その差

額を1社に返す。

健康福祉課長

③福祉給

付金を支給するため、新

規採用の臨時職員を配置

する。予定は3カ月間。

農林建設課参事

④マコ

モ部会が、マコモ葉を乾

燥させてお茶の原料とし

て出荷するために、ビニ

ールハウスを農協の敷地

内に設置する。実証試験

は、2回したが問題はな

い。

教委事務局長

⑤当初予

算の計上漏れ。東幼稚園

2台、西幼稚園3台、東

小学校3台、西小学校3

台、中学校3台。

⑥当初月1回が、月2回

になり、第1と第3日曜

に開館する。シルバー人

材センターと委託契約し

ている。



暁天座禅

マイナンバーの総事業費は

眞野議員 マイナンバー

- 制度の導入委託料は、歳出が2164万1000円。国庫支出金の整備補助金は862万4000円。差し引き1301万7000円が町の負担。
- ①今年度はどこまで準備するのか。
 - ②今後、幾らぐらい必要なのか。
 - ③総事業費をどれくらい見込んでいるのか。
 - ④維持費やランニングコストはどうか。
 - ⑤導入後のメリット、デメリットは。
- 3700万円程度の経費。今後は厚生労働省が所管するシステム改修が必要。
- ④現時点で要する経費は試算できていない。
 - ⑤メリットは運用開始後、全国の自治体間で情報のやりとりを行うことが可能となり、住民が複数の官公庁に向いて書類を入手する必要がなくなる。
- デメリットは法改正により作業がいろいろ出てくることで事務量が増える。また、費用面で町単独の持ち出しがかなりある。

総務課長 ①総務省の補助対象の総合宛名システム、住民基本台本システム、地方税務システムの3システムと、番号付番用サーバが必要。

- ②来年度も1600万円程度の予算が必要となる予定。
- ③今回の補正額とで総額

土地開発公社（報告）

お金を全然使っていない

平野議員 平成25年、26

年もお金を全然使っていない。今後生活道路など土地購入などに使う気はあるのか。

農林建設課長 今後、大

きい事業については用地の先行取得が発生するので、もう少し土地開発公社については残しておく。



夢はJリーガー

条例の一部改正

小児医療費給付に関する条例

心身障害者医療費給付条例

ひとり親家庭等医療費給付に関する条例

小児医療費・心身障害者医療費・ひとり親家庭等医療費は、これまで指定訪問看護を受けた場合、窓口負担については本人が一旦3割を負担し、後日公費負担の2割部分を給付する償還払いでした。

今回の改正で、10月1日からほかの医療費の給付方法と同様に給付資格証の提示によって窓口負担が1割となる現物給付となります。

（すべて全会一致で可決）



げんキッズ

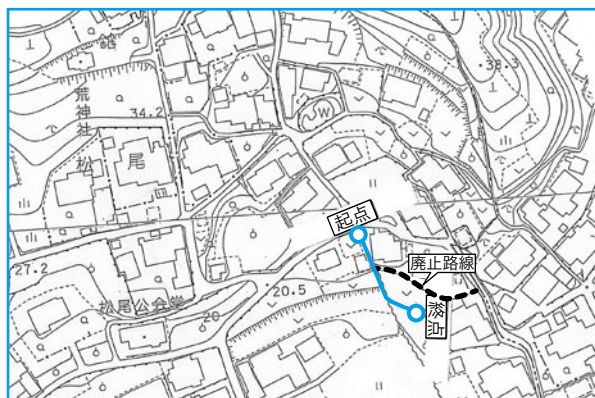
町道路線の廃止と認定

委員会に付託された町道路線の廃止と認定の4議案を審議するため、6月10日に委員会を開催しました。

当日は担当課と現地調査を行い、慎重に審議を行いました。

松尾地区の町道路線廃止部分は、数十年前から宅地内にあり、通行不能でした。利用関係者の承諾も得られていることから町道路線を廃止し、必要な部分を整理して再認定しました。

また町道229号線第3工区完成に伴い重複する部分の町道路線を現況にあわせるために廃止と再認定を行いました。



廃止と認定路線



廃止と認定路線



監査委員による月例出納検査

人事

副町長（新任）

里庄町大字里見

1081番地

加藤 泰久氏

議会推薦

農業委員会委員（再任）

岡村咲津紀氏

監査委員（新任）

里庄町大字新庄

2927番地

平野 次朗氏

農業委員会委員の選任による委員のうち、議会推薦は、岡村咲津紀氏と決定し、再任しました。

**固定資産評価審査
委員会委員（再任）**

里庄町大字新庄

2662番地

江原 睦美氏

※農業委員会は、農業生産力の発展及び農業経営の合理化を図り、農民の地位の向上に寄与するために法令に基づく適正な農地行政と農業の担い手の育成と後継者の確保等に努めています。

（全会一致で同意）

議会会議録は里庄町の

ホームページからご覧になれます。

<http://www.gijiroku.net/town.satosho/>

里庄町
HP

町議会

クリック

町議会について

クリック

里庄町
議会会議録

クリック

会議録
閲覧・検索

手話言語法制定を求める意見書の提出を(議員全員が賛成)

請願

採択

審議結果

総務文教委員会に付託され、閉会中の継続審査となっていました意見書の提出を求める請願は、5月29日に委員会を開催し、慎重に審査を行った結果、採択すべきものと決しました。

国に意見書

手話言語法制定を求める

手話は、手話を使うろう者にとって、きこえる人たちの音声言語と同様に大切な情報獲得とコミュニケーションの手段です。

手話が音声言語と対等な言語であることを広く国民に広め、きこえない子どもが手話を身に付け、手話で学べ、自由に使い、更には手話を言語として普及、研究することのできる環境整備を目的とした「手話言語法(仮称)」を制定することを強く求めます。

常任委員会

議会改革視察研修

7月17日、福岡県の川崎町へ議員全員で議会改革の視察研修に行きました。

川崎町議会では、議会改革に取り組み、住民からの意見聴取や議会基本条例を制定しています。

また平成23年6月から「通年議会」をスタートさせ、委員会活動の活性化やいかなる事態にも

即応できる体制づくり等をしていました。そのほかに専決処分が極めて少なくなることや監視機能が強化できることなどの

メリットに対してデメリットはあまりないと説明を受けました。

当町もこの「通年議会」の導入に対して、積極的に検討する必要があると感じた視察研修でした。



川崎町

議会広報編集委員会

議会広報視察研修

6月25日、町村議会広報全国コンクールで最優秀賞を受賞した宮城県の新金ヶ崎町へ議会広報の研修に行ってきました。

研修会では、全国コンクールで評価が高かった「スピード発行」、「見やすくてわかりやすいレイアウト」、「町民目線の企画で議会に理解を深めてもらう努力」などのことを

中心に説明を受けました。

金ヶ崎町は、議会終了後広報誌を22日で発行するための工夫や努力を重ねていて、議会開催の告知まで行なっていました。

時間いっぱいまで、質問や意見交換を行ない、有意義な研修会となりました。今後の議会広報づくりに活かしたいと思えます。



金ヶ崎町

一般質問

町政を問う

5人の議員が登壇して質問!

平野 敏弘 議員.....9P

- ① 町議会との関係
- ② 来年度の職員採用
- ③ 通学路の歩道整備
- ④ 職員アンケートの実施

岡村咲津紀 議員.....10P

- ① 町民の防災意識の向上
- ② 幼保一体化事業
- ③ 生徒のLINEといじめ

小野 光章 議員.....11P

- ① 道路等占用利用者に対する占用料の徴収
- ② 運動公園

高田 卓司 議員.....12P

- ① 里庄町の特産
- ② 育英奨学資金制度

辻田 勝之 議員.....13P

- ① 副町長の責務と抱負

※一般質問の原稿は質問者が作成しています。



平野 敏弘 議員



議会との話し合いは

町長／施策はできるだけ説明する

問

町長は、6月議会で今後、議会

に説明を尽くし、情報を提供し、話し合いを重ね対応したいと答弁している。本当にそういう気持ちを持ってやっているのか。

副町長は町長と一心同体だと思う。これからの議会との関係や副町長が目指しているものは。

町長

施策はできるだけ議会に説明し、本会議で議論してもらう姿勢でやる。

副町長

職員一丸となり、住民の立場に立ち、安全な町づくりが進めるような体制に取り組んでいきたい。

行政需要に応えるため、事業の優先順位をつけ、町民福祉の向上につながる施策に、重点的に取り組んでいきたい。町民に、積極的に情報公開し、透明の確保に努め町民の方も行政に参加

協力を得て活力のある町づくりに努めたい。

職員採用は不要では

総務課長／退職者の補充は計画的に

問

財政が厳しい中、職員採用は不要と考えるが、来年度の採用は。

数年前の機構改革では、町民サービスの向上や課の統廃合で管理職を減らし、人件費の抑制にもつながると説明があったが、現在の状況は、管理職が多い。なぜなのか。

町長

参事や課長が多いのは事実。

バランスの良いピラミッド型の組織にしたいと思うが、現実的には参事等の肩書を作らないと、横のつながりが上手くいかない。

総務課長

少ない職員数で業務を行っている。退職者の補充は計画的に実施していきたい。

総務課長

少ない職員数で業務を行っている。退職者の補充は計画的に実施していきたい。

農林建設課長

歩行者の安全確保のため、路肩を拡張した暫定的な歩道

問

東駐在所から東小学校の通学路歩道は、交通量も多く借地をしてでも、早急に歩道を設置すべき。

通学路の歩道を早急に

農林建設課長／用地買収した後進めたい

整備の必要性は高いと判断している。

県は借地による事業実施は道路区域に編入することができない等の問題があり困難なため、事業用地を買収した後、進めたいと回答をもらっている。

職員アンケート実施は

総務課長／12月に実施したい

問

平成24年度に職員アンケートを実施している。

今年度は実施する考えがあるのか。

アンケートの結果を、職員全体に知らせたらどうか。

総務課長

職員の生の声をもとに、職員の創意工夫や現場における行動力が発揮できれば組織力の向上となる。

今年度は12月にアンケートを実施したい。

町長

前回の結果は、職員にフィードバックしている。職場環境をよくする方向で、職員も参考にしている。

自主防災組織を設立した分館数は

総務課長／浜中団地東を始め6分館

問

地域の防災力を強化することは、安全・安心の町、官民協働による災害被害の軽減となる。

これまでに訓練を行った分館の参加率や訓練の内容、目的は。

自主防災組織を立ち上げた分館数と最近の推移は。

立ち上がっていない分館に対し、アドバイスやサポートをするのか。

総務課長

浜中地区は40人、大原地区は200人の参加。今年度は殿迫・本村・松尾を対象に実施した。参加率は本村20%、殿迫14%、松尾は自主防災組織の役

員18人、3分館で227人の参加。

訓練の内容は、大雨による里見川の氾濫及び土砂災害という想定で、里庄東小学校体育館への避難訓練、段ボールベッドの作成体験、防災対策等に関する講座、グラウンドで土の積み訓練、煙道体験、消火訓練を行った。

今回は家庭で出来る防災対策や、身近に発生する火事に関する体験等により、防災意識の向上を図る目的で実施した。

自主防災組織を設立した分館は、浜中団地東、西平井、東平井、大原中、大原西、松尾分館である。防災訓練や出前講座等

で、設立を促進し、活動の支援も行う。

幼稚園を選択した場合無料か

町長／無料の予定

問

平成27年度から幼稚園、保育園を保護者が選択できる事業の選択肢は。

かすみ保育園の建て替えに影響はないのか。

幼稚園を選択した場合無料なのか。

社協が検討している子供預かりは有料か。

町民課長

日中の保育を必要とする場合は保育園、集団生活等による就学前教育を希望する



岡村咲津紀 議員

携帯やスマートフォンの使用者数は

教委事務局長／中学生の42%が保有

問

携帯やスマートフォンを使用している生徒や児童数は。LINEが原因となるいじめは起きていないのか。正しい知識を提供できる学習等を今後進めていく計画があるのか。

教委事務局長

中学生の42%が保有している。不登校の生徒は、LINEなどが原因ではないが、個々の状況で学校に行きにくい生徒がいる。

7月3日に、町が主催する情報モラル講演会に、1年生の参加と保護者に呼びかけを行っている。講演会を通し、家庭での役割、ルールづくりなどを勉強してもらい、携帯電話などの利便性や危険性を話し合う中でモラルの徹底に協力をいただきたい。

町長

幼稚園は、今のところ無料の予定である。

健康福祉課長

社協の自主事業で10月からの開始に向け検討中。

小野 光章 議員



占用料の条例整備は

農林建設課長／制定できるよう努力する

農林建設課長

道路法で、道路管理者は占用料

占用料の対象物件はどのくらいあり、徴収すれば年間どのくらいか。近隣の自治体では徴収している。条例を整備する方向で、取組んだらどうか。いつ頃までに整備できるのか。

問

町道や町有地に、中国電力やN・Tの電柱が多数設置しているが、占用料は徴収していない。



町道に建つ電柱(G・C)

を徴収する事が出来るとある。自治体の条例で徴収方法は定めるとあり、町は条例が定められてなく、徴収はしていない。対象物件は、中国電力、N・Tの電柱だけの試算では、約700本の対象物があり、年間約50万円の徴収見込みを想定している。

条例の制定には、課題の整理が多々有るが今年度中に制定できるよう努力する。

問

現在の運動公園の駐車場の収容台数は少ない。

公園利用者は、グラウンドで大会をしても、駐車場が満車で近くに停められない。

今後、駐車場の拡大に向けての考えはあるか。園内から作業車が行けない場所がある。作業者への負担は大きく、作業性も悪い。

公園内の作業管理道を作る考えはあるのか。

農林建設課長

運動公園の駐車スペースは、全体で100台余りの駐車スペースを確保しているが、イベントや行楽シーズンは不足している現状である。

公園駐車場奥に町有地

運動公園駐車場の拡大は

農林建設課長／整備時期は適切に判断

が有り、これを活用すれば20〜30台は駐車可能となる。整備時期は、町事業の優先順位や財政状況を踏まえて適切に判断していく。

費用が掛かり実施は困難と判断した。中国電力と協議し、管理道に碎石を敷き補修整備を行ない、通行しやすくする。

公園の倉庫棟裏の法面を切り、道路を付ける方法で検討したが、多額の



運動公園駐車場

マコモタケ、特産品化はできないのでは

農林建設課参事／自然食品の業者へ販売も



高田 卓司 議員

問

①マコモタケを特産品として進めてきたが、どのように推移してきたのか。

②いろんな援助をして、補助金も出して環境整備をしてきたが、県外の販路開拓し、どの位の金額が出荷されたのか。

③特産品とは観光や雇用収入源などをつくり出すためにつくるものだ。

④荒廃農地対策で1000万円もかけてマコモタケをやっているが、採算ベースに合わないのでは。特産品化はできないのでは。また他地区の対策は進んでいないのではないか。

今年マコモタケをお茶にするとして予算をつけているが採算ベースに合うのか。

⑤健康食品の業者がお茶として売るといふことであるが、量の確保・単価の補償など契約して対応ができるのか。

現在マコモ同好会イコール農業委員会となっているようだが、今後高齢化していくのでメンバーの確保はできるのか。

⑥荒廃農地対策として、とりあえずやれることを考えたかどうか。町の木がツバキであるから、ツバキを植えて油を搾ってツバキ油を特産品にすることは考えられないか。

農林建設課参事

①平成23年から耕作面積1・4ヘクタールの圃場を確保して本格的に始めて、3年が経過した。その後0・2ヘクタール増え、収穫量が1・8から2・7トンになり、売り上げも増えている。

特産品に向けては、よい感触であると感じている。

②0・8〜1トン出荷している。金額は今資料がないのでわからない。

③学校や農業者とも連携して、さまざまな体験活動を行う場に活用され、食を大切にしてこれを楽しみ心や、社会的視野を育てていく上で大きな期待ができ、費用対効果は

十分あったと考える。

④農協から直接自然食品の業者へ販売し、結構いい単価で契約ができるよう取り組んでいる。

⑤今後同好会の人は高齢化に伴いどんどん参加できる委員はいなくなると思う。

⑥ツバキ油をつくる考えは今のところない。

⑦学校や農業者とも連携して、さまざまな体験活動を行う場に活用され、食を大切にしてこれを楽しみ心や、社会的視野を育てていく上で大きな期待ができ、費用対効果は



マコモタケ圃場

育英奨学資金制度を復活してはどうか。

町長／今は考えていない

問

指定寄付により始まった町独自の育英奨学資金制度を特別会計を作り運営してきたが、原資がなくなり現在閉鎖している。復活してはどうか。

20年前に国からもらった1億円の一部を使うとか、もうかつている企業に協力してほしいとお願いはどうか。

教委事務局長

高校生の就学期間に支給し、返還の義務を免除して、昭和42年度から平成23年度まで運営したが、財源がなくなり継続が難しくなり終了している。

今は国の費用により授業料が無料化になっているので、国の制度が変われば検討したい。

町長

すべてを行政がするということではないかというので、今は考えていない。

辻田 勝之 議員



副町長の所信は

副町長／役割をしっかりと果たす

問

副町長は、先日の臨時会で満場の一致で同意され、役割の重さ、深さを感じていると思うが、一般職を離れ、特別職としての役割を担っていかねければならない。

町づくりの基本である人づくり、人と人とのつながり方、そして人を育てる、人を理解する、こういう意味に立つての人づくりは、最も大事な地域づくりの要素と考える。そこで、

① 町民に対しての所信。
② 町職員との関係についてどのように考えているのか。
③ 議会との関係は。
次に町づくりを進めていく中で基本的な構えを聞く。

④ 財政のこと。
⑤ 子育て、教育のこと。
⑥ 生活基盤整備、環境は。副町長には熟慮断行をしてもらいたい。

副町長

6月1日より職務に就き、改めて責任の重さを感じている。

環境は人をつくり、人は環境をつくるという仁科博士の言葉がある。

この言葉のとおり里庄町が、今後も生き生きとした活力ある町を創造していくためには人づくりが、重要と考える。

① 町民の皆様には分館活動や地域の活動を通して、互助、共助の考えがあり、町民の協力、参加してもらいながら、里庄町のよい伝統を残しつつ、時代の要望に応えるよう行政として担うべき役割をしっかりと果たしていきたい。

② 31年間、一般職員として勤めた。職員の職務に対する考えや気持ちはある程度理解できていると思う。

役場の業務は複雑多様化、高度化している。職員一人ひとりが自覚し研さんを重ねる必要がある。今までの経験を生かし

つつ職員の意見や考えをよく聞き、同時に指導しながらよい関係を保ち職員一丸となって取り組んでいける体制をつくっていく。

③ 議会も町執行部も住民福祉の増進を第一に考えていると思う。考え方は多様にあると思うが最終的には、時間、財政効果など考えた上で、協力しながら結論を出していく。当然必要な議論はする。

④ 平成19～23年度収支は連続赤字、24年度は少し黒字となっているが基金をとり崩しながら行政運営をしている。

子育て、下水道、防災公共施設の改修など重要な政策ばかり限られた予算の中、慎重に進めている。

⑤ 人づくりの原点は教育にあり、人格形成には大きな成果をもたらす環境が整っていると聞いている。教育に積極的に、かわっていくことが責務と考える。

⑥ 基幹道路、生活道路整備を推進してきた。町の東西の利便性、通学路の安全性も高まっている。また、公共下水道の整備も近隣の市との接続も

了承をもらい、限られた財政の中、弾力的に更なる全体のバランスを考えながら、確実に推進していきたい。



ベルトマッサージャーで健康づくり(健康福祉課)

少人数でアットホーム

大原西子供会

大原西子供会は、幼稚園児から小学校6年生まで10世帯12人で活動しています。人数が少ないため、何かと大変なことがあります。全員で協力して様々な行事に取り組んでいます。反対に、少人数だからこそ良いところも沢山あります。

まず、子供同士の仲が良いことが自慢です。登校班は1班だけなので、毎日の登下校で、本当の兄弟姉妹のような関係が築けます。歓送迎会、バス旅行などのイベントについては、子供たち全員で企画し、毎回盛り上がりです。昨年度はUSJ大阪への日帰り旅行を計画し、とても楽しい思い出になりました。

また、保護者同士の仲も良く、行事には父親

母親が揃って参加しています。秋祭りでは、母親がお花のお礼にまわり、父親が神輿の引率をするなど分担し、子供たちのために、少ない人数を補うため協力しています。そして、地域の方々と距離が近いことも魅力です。子供が少ない分、どなたも子供ひとりひとりの顔と名前をすぐに覚えてくださいます。子供たちは、安心してのびのびと活動することができますので、この環境には大変感謝しています。

大原西分館の皆様と一

体となり、全員参加の楽しい地域づくりに貢献できるよう、これからも仲の良い子供会として活動していきたいと思っています。



《第77号》

平成26年7月31日 発行

発行／岡山県 里庄町議会

〒719-0398

岡山県浅口郡里庄町

TEL(0865)64-7217

FAX(0865)64-3618

編集／議会広報編集委員会

E-mail:gikai@town.satosho.okayama.jp

●あとかぎ

梅雨が明けたとはいえ、連日猛暑が続いています。十分な睡眠や休養をとり、無理のない生活を送りましょう。

町民の皆様にご覧いただけたら幸いです。紙面の構成や、わかりやすい表現など、今後も読みやすい紙面作りに向け頑張っていきます。

議会だよりが届く頃には、本格的な真夏を迎えます。健康に気をつけて乗り切りましょう。

(松原)

編集委員

委員長：眞野博文 副委員長：小野光三 委員：松原繁之 委員：岡村咲津紀

